

# 社協たより

第162号

2014.6.1

点字・墨字版あります

【編集・発行】社会福祉法人 直方市社会福祉協議会 〒822-0034 直方市大字山部616-145  
TEL0949(23)2551 FAX0949(23)2552  
e-mail:nogata-shakyo@fuga.ocn.ne.jp HP:http://www.nogatahakyo.org/



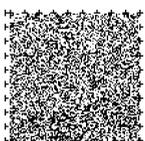
## 絶えまなくつながる絆

(よこいと運動会の詳細は、  
4ページをご覧ください。)

### もくじ

- 男性介護者へのメッセージ ..... 2
- お知らせ ..... 4
- 地域のはり(認知症ケアシステム協議会) ..... 2
- 情報の広場(市立図書館に拡大図書機) ..... 3
- ご寄付 ..... 4
- 図書室(天翔る) ..... 3

ぜひ参加して、さわやかな充足感をお持ち帰りください。(広田)



よこいと運動会に参加したことがありますか。

障害のある人、子どもから高齢者、日頃から活動しているボランティア、みんな「ワイワイ、キヤーカー」年に一度、楽しい感動の汗を流します。

車いすに乗ってリレーに参加すれば、低い目線から新しい世界が見えますよ。

横糸つて、布を織るとき、縦糸の間を通し、美しい絵柄を織り出す糸のことですよ。みんなで横につながって、心に残る素敵な織物をつむぎましょう。

最近、無心で楽しく、心地よい汗をかくことってありますか。

今年6月15日に、直方市体育館で第39回目を開催します。

kantera

### カンテラ



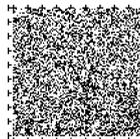
心地よい汗を  
よこいと運動会へ

この社協たよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。

# 増える男性介護者と広がる支え合い

～一人で悩み抱えないで。あなたへのメッセージ～

平成26年2月8日(土)に「大介護時代男性介護者を取り巻く現状とは」と題し、立命館大学の津止正敏さんに講演いただきました。また、2月22日(土)には、「男性介護者・支援者からのメッセージ」と題し、男性介護者2名、支援者1名に報告いただきました。



## 社会が想定していなかった介護者の登場

社会は、介護者を「若くて、体力もあり、家事も介護も、介護に専念できる時間も、そして介護する規範もある」人を想定していましたが、実際は、男性、老々、シングル、認知、複数介護など「若さも、体力もない、家事も介護もできず、時間もない」人が戸惑いながら介護をしています。大介護時代とは、想定外の介護者が次から次に登場している時代です。だからこそ問題も起きているのです。

## 男性介護者(ケアメン)の実態

昭和43年から平成19年に行われた介護調査では、当初に主たる介護を女性が担った時代から、現在は3人に1人が男性で、その数は100万人を超えています。わずか40年近くで介護者の実態が大きく変わったのです。

平成21年には「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」が発足し、全国から白髪

まじりの中高年の男性介護者が大勢集まりました。

また、働きながら介護している40代、50代は170万人で、その4割は男性です。

今後、介護と仕事を両立させていくための施策が、大変重要だと思っています。

## 介護のある暮らしをスタンダードに

今の社会は、介護のある暮らしを排除しながら成り立つ生活をしています。しかし、今からは、介護のある暮らしを主流にしながら、介護する人もされる人も支えていく仕組みが必要です。

介護はつらいことばかりではないと思える体制を、社会全体でつくりあげることが大切だと思っています。そのためには働き方が多様化する必要もあります。

今後の介護施策として、介護する人、される人、両方の支援を視野に入れた新しい介護サービスが始まれば、家族の犠牲の上に成り立つ介護ではなく、介護のある暮らしがスタンダードになっていくのではないのでしょうか。

メッセージ①(男性介護者)  
認知症の人と家族の会 直方  
立山 利博さん

「仕事をやめなくて!!」  
妻の介護ができています



妻は平成18年に、職員の気づきをきっかけとして受診し、アルツハイマー病の診断を受けました。

私は仕事をしていますので、継続できる環境を整えるため、介護度に応じた福祉サービスを最大限利用しています。

介護をするうえで、家族、地域社会(町内会・老人会など)、職場(なごみの会)の人たちなど多くの絆を支えられています。「助けを求めるとは自ら作るもの」だと感じています。

在宅介護への強い思いはありましたが、平成25年7月に「今の生活の昼と夜を逆バージョンに考えてみませんか」の示唆にグループホームに入所しました。

妻に聞くことはせず、人としての尊厳を大事にしながら、今も介護を続けています。

メッセージ②(男性介護者)  
認知症の人と家族の会  
福岡県支部  
内田 秀俊さん

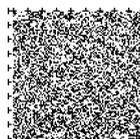
「若年認知症の妻を介護して13年」



妻は平成12年に、アルツハイマー病の診断を受けましたが、本人への告知はしていません。私は介護のため、定年まで1年を残し退職しました。介護9年目の平成17年には要介護5の認定を受け、現在は立位と歩行がかるうじてできる状態ですが、デイサービス等を利用しながら、在宅介護を続けています。

困りごとを解決するため、家族の会のついでに、経験者の話を聞くことやヘルパー研修も受講しました。ヘルパーの介護実習では「私の妻もそうなるのか」と衝撃だったことを覚えていきます。

妻の残存能力を生かせるよう勉強していますが、自分の時間(趣味や生涯学習、家族の会活動)も大切にしながら介護を続けています。



メッセージ③(男性介護支援者)  
認知症の人と家族の会 福岡県支部  
岡村 敏治さん



「同じ立場の人がいます。一人で悩まないで」

家族の会は平成18年に、男性介護者のつどいを始めました。

つどいに参加した男性は「俺一人が苦勞していると思ってた」「自分はまだまだやな」など、同じ立場の人とのつながりによって、表情が緩み、中には意気投合して飲みにくい人もいます。

平成21年には、男性介護者と支援者の全国ネットワークが立ち上がり、男性介護者の支援も広がっています。

また、男性介護者と関連深い課題である、介護離職の課題に取り組む製薬会社もでてきました。

男性介護者の皆さんには「二人で悩まないで、不安や不満を相談して欲しい」「一人で頑張らず、発散する工夫も必要」と伝えていきたいです。



# 地域の輪

地域に根ざした独自の  
福祉活動をご紹介します。

## 住み慣れた地域で自分らしく

「カフェ昭和館」スタートのおがた認知症ケアシステム協議会



我が国の認知症の人は462万人、軽度の人は400万人いると言われてます。そこで、政府が「認知症になって、できる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができると社会」の実現を目指した施策に基づき、経験豊かな職種の人たちが「のおがた認知症ケアシステム協議会」

を立ち上げました。

最初の事業として「カフェ昭和館」1号館を4月6日から「えみくる」にオープンしました。開館日は、毎月第1・第3日曜日の13時から16時までです。

これからは、公民館単位で、くつろげる居場所としての「カフェ」開店を目指しています。

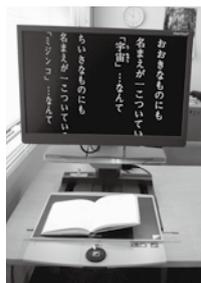
取材を通して「私を忘れていいよ。私は何度でも初めて会う人になるから」「お家を忘れていいよ。私と一緒に帰るから」という思いになりました。

カフェ昭和館が、たくさんの方の手を借りながら、なにげない日々の暮らしの中に溶け込み、歴史を刻んでいきますように。

(田中)

## 情報の広場

文字を大きく映す拡大図書機を市立図書館に設置



小さな文字が読みづらい人に、文字を拡大して画面に映し出す拡大図書機が、4月より直方市立図書館に設置されました。

機械下部の台に本を置き、22インチのモニターに、白黒、白黒反転(文字が白で背景が黒)、カラーの3つの方法で表示されます。モニターは回転し、横向き最大77倍、縦向き最大124倍まで文字が拡大します。

館長の野口さんからは「どなたでもご利用できますので、スタッフまでお申し出ください。また、利用されて率直なご意見を聞かせてください」と話しを伺いました。(藤田)

## 図書室



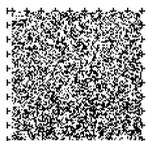
著者 村山 由佳  
発行所 講談社  
直方市立図書館蔵書

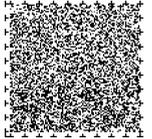
看護師の貴子が出会った少女、まりもは、ある事件から学校に行けなくなってしまう。貴子は少女を牧場へと誘う。そこで待ち受けていたのは風変わりな牧場主と、乗馬耐久競技という未知の世界。大切なものを失い、傷つき、それでも前を向こうとする人々を透視感あふれる筆致で、北海道の牧場を舞台に描かれる命の輝き。

一瞬を永遠に変え  
永遠を一瞬に凝縮し  
駆ける 駆ける  
少女は駆ける  
ただ命の弾丸となって

駆ける  
天、翔る  
底知れぬ感動を呼ぶ、祈りと感動の物語。思わず一気に読み通し、感涙。

(広田)





皆様からいただいた使用済み切手を、社団法人日本キリスト教海外医療協会(JOCS)に約25キロ送りました。使用済み切手1キロは1,600円に換金され、アジアやアフリカの人々の健康を守る活動に使われます。

ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

使用済み切手  
ありがとうございます

## 直方ボランティアのつどい

ボランティア活動の実践報告から学ぶつどいを、昨年度3回(9月・12月・3月)にわたり開催しました。

6つのボランティア団体の発表から「新メンバーの加入」「高齢化」「広報」と共通した課題をテーマにしなが、今村先生(NPO法人NPO九州)コーディネートのものと、参加者同士で意見交換しました。

参加者アンケートからは「人が集まる場所には様々な考えが集まる」「他団体の活動状況がわかった」「ボランティアとしての再確認ができた」などの声がありました。



ご寄付ありがとうございます  
ごさいいます。



平成26年2月11日

～平成26年5月10日

16件合計金額268,919円

(お名前は承諾された方のみ)

掲載、敬称略)

### 香典返し寄付金

●下境 和田 浩章

●神正町 (故) 高松 真美

●頓野 高野 信子

●上頓野 森 理行

●上新入 (故) 川村 茂子

●若松区 飯野 宏

●植木 柴田 洋子

●上境 野口 次郎

●感田 (故) 久保田イミ子

●知古 (故) 星岡ユキエ

### 一般寄付金

●えくぼの会

●永満寺 岡本 英代

●サロンなおみ

### 編集後記

退職後、いくつかのボランティア活動に参加して自身が喜びをもらっています。

最近では体調が思わしくなく、活動も滞りがちになっていましたが、改めて活動を始めたところ、講師の言葉を思い出しました。「ボランティアには、1健康、2家族の理解、3少しのお小遣いが必要」ということです。

まさにその通り支えられ、ボランティアができていて、感謝し、改めて諸条件に感謝しているこの頃です。(石黒)

社協だよりを読まれた感想やご意見、地域の福祉活動に関する情報などありましたら、本会までご連絡ください。

## よこいと運動会



### 日時

・平成26年6月15日(日)  
受付 9時30分～  
運動会 10時～15時頃

### 会場

・直方市体育館(直方674-25)

### 無料送迎バス

・JR直方駅から無料送迎バスを運行します。

直方駅発 1便 8時50分  
2便 9時20分

体育館発 15時頃(全日程終了後)

### 注意

・体育館シューズとシューズ入れをお持ちください。

・昼食が必要な方は各自ご持参ください。

### 主催

直方市社会福祉協議会  
第39回よこいと運動会実行委員会

【お問い合わせ】

直方市社会福祉協議会

電話：0949(23)2551

